広島大学病院ニュース

No.72 2024.10

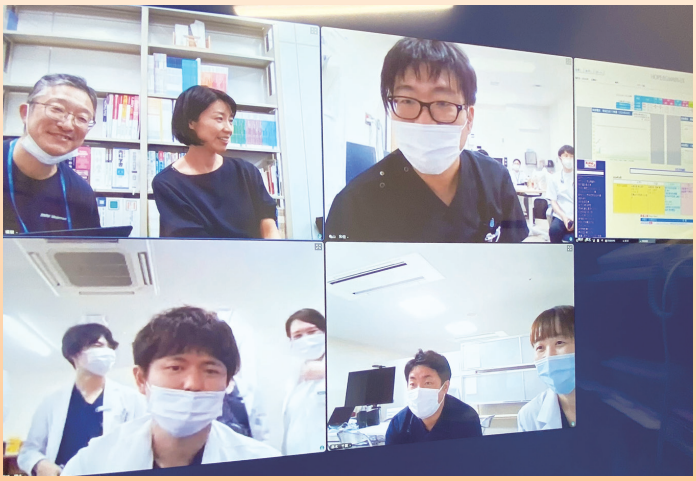
ご自由にお持ち帰りください。

Hiroshima University Hospital News

総合診療医センターを開設

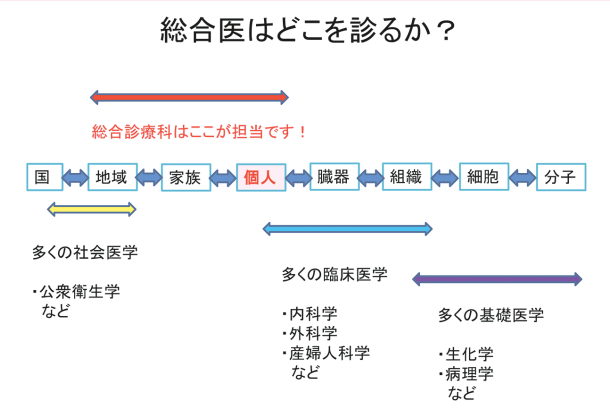
複数の疾病、生活まで診る医師育成

患者の望む暮らし　地域医療を守る



総合診療医センターを開設

広島大学病院は広島県と令和5(2023)年10月、総合診療医センターを開設しました。厚生労働省の事業に、全国で8番目に採択されたのがきっかけです。総合診療医は、患者さんの特定の臓器に着目するのでなく、複数の疾患や地域で暮らしていくための課題を総合的に診る医師です。患者さんの心身の健康面、家族関係、就労・経済状況などを多角的に診て、その人が望む暮らしを送れるように、専門医や保健、介護職たちと連携し解決にあたります。センターは広島県内の病院や診療所と育成プログラムを拡充・推進して地域医療体制を築き、若手医師を育てます。



● 広島の無医地区53　ワースト2位

広島県内に多い中山間地の医療は厳しい現状にあります。厚生労働省が発表した令和4(2022)年10月時点の広島県内の無医地区は北海道に次ぐワースト2位の53地区となっています。医師数は増えているのにもかかわらず、地域医療が拡充しないのは、医療が細分化、専門化したのが主な原因の一つです。

専門医は、専門領域については非常に深い知識と経験を持っています。しかし、例えば「胸が痛い」「咳が出る」と訴える患者は、心臓や肺の病気であるとは限りません。どこの臓器にトラブルが起きているのか、複数の疾患を同時に抱えていないか、見極められる医師が診ることが、疾患の見落としを防ぐのに大変重要です。「地域医療を守り、よりよい社会をつくるのに総合診療医への期待は大きい」。広島大学病院総合内科・総合診療科の伊藤公訓教授は強調します。

● 8プログラム　救急、慢性期、健診など実地に

2018年4月に始まった新専門医制度により、専門医の基本領域に「総合診療」が追加されました。センターでは、地域や規模が異なる病院での8つの育成プログラムを設定。救急や慢性期、専門的な医療、健診などを実地に学べます。

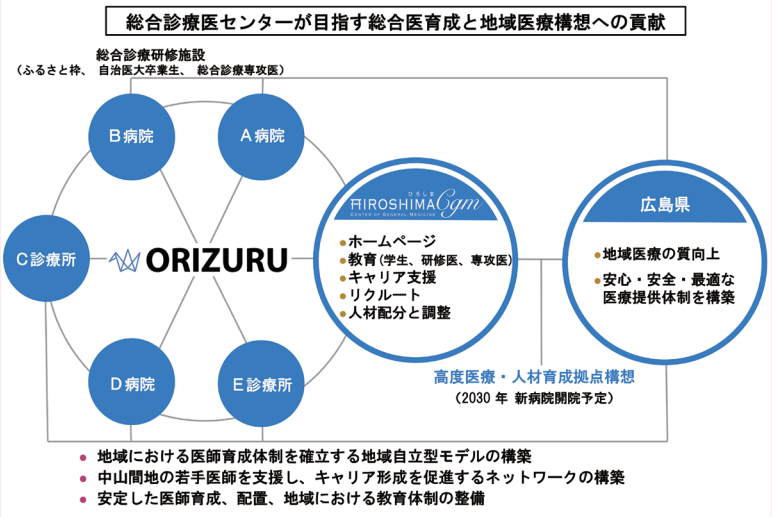
広島大学病院のプログラムでは、①幅広い疾患や傷害、日常的な健康問題②緊急性を要する疾患や傷害に対する初期診療③入院頻度の高い疾患や傷害④在宅医療で頻度の高い健康問題―の4点について適切にマネジメントできる能力を身につけます。救急から生死まで向き合い、慢性期の患者に寄り添える医師を育てます。

具体的には、問診、視診、触診、聴診や急性・慢性疾患の外来診療・入院診療、超音波検査を中心とした検査技術を習得。診断や治療の症例に対する推論能力を培い、救急車の初期対応業務にも従事します。生活習慣病や、うつ病、不眠症など精神科領域にも触れ、広島県内の16病院と連携して、総合診療を18カ月、内科を12カ月、小児科と救急科でそれぞれ3カ月ずつ研修。地域で暮らす人々の命と健康にかかわる幅広い問題に対応する力を身につけます。

● 保健、介護、福祉のリーダーにも

地域を支える診療所や病院で勤務する医師は、保健、介護、福祉を含むさまざまな分野でリーダーシップを発揮しつつ、在宅医療や緩和ケア、高齢者ケアなど多様な医療サービスの提供が求められます。住民組織などと協働して住民の健康維持・増進に関わっていくためには、良好な人間関係を築くことも不可欠。研修を通じて、コミュニケーションスキルも磨きます。

センターは広島県内の総合診療医が一つになって、若手総合診療医を育て、支援するという大きな役割も担っています。その力になるのが、「ORIZURU」と名付けた遠隔診療支援システムです。基幹病院だけでなく、医師が少ない地域の小規模診療所も結んで、診療に活用するほか、医師の相談に乗ったり、研究にアドバイスしたり、教育にも活用します。毎週金曜日に運営会議を開いているほか、症例研究や広島県とのミーティングを重ねています。



● 2次医療圏に10人　合計100人の育成目標

また、外部から総合診療医師を招いてのセミナーや講演会を開いて新たな知見に触れる一方、海外での研修も支援し、グローバルな視点を持つ次世代リーダーとなりうる人材を養成していく考えです。広島県内7つの2次医療圏において、それぞれに10人以上の総合診療医チームを構成し、県内全域で100人を育成するのを目標としています。

センターのホームページでは、広島県内で活躍する若手総合診療医を紹介。動画コンテンツとして、「タバコをやめてもらうためにできること」「医療現場で使える広島弁講座」などをアップしています。ぜひご覧いただき、総合診療医の活躍に期待してください。

ホームページ
https://hiroshima-cgm.com/

インスタグラム
https://www.instagram.com/hiroshima.cgm/

広島の医療を支えていきます

東條環樹（とうじょう たまき）センター長の話

広島県北広島町の雄鹿原診療所に勤めて16年になります。検診の充実と啓発による健康増進と、施設や在宅での高齢者ケアに地域ぐるみで取り組んできました。これからの地域社会、医療現場では総合診療医が切望されています。①どんな病気も診る②行政とつながる③介護保険サービス④予防医療⑤在宅医療⑥高齢者施設⑦学校・産業医－など対応しなくてはいけないことがたくさんありますが、広島の医療を変えて、支えていくのは総合診療、そして総合診療医。センターは総合診療医のチーム化を進め、地域医療を守り、若手医師を支えていきます。

ニュースアップ

自覚なくても肝炎ウイルス検査を

7月28日の世界（日本）肝炎デーを前に25日、広島大学病院診療棟で、無料肝炎ウイルス検査のイベントが開かれました。広島県が認定する特任肝疾患コーディネーターや、歯科医師たち10人が、患者さんや家族に受検を呼びかけました。

肝炎クイズが描かれたうちわや、院内にある肝疾患相談室のリーフレットも配布。早速、検査に臨んだ人からは「良い機会。安心につながれば」との声が聞かれました。

肝がんの原因の大半は肝炎ウイルスの感染とされ、肝炎は放置すると肝硬変や肝がんに進行する恐れがあります。B型肝炎は働く世代に、C型肝炎は高齢者世代に多いと考えられていますが、自覚症状がないケースが多く、早めの肝炎ウイルス検査が大切です。

広島県は、委託する医療機関や県保健所（支所）で、無料で肝炎ウイルス検査を実施しています。広島、呉、福山の市民は各市が委託する医療機関で検査を受けられます。

一生に一度は肝炎ウイルス検査を！

新生児検査で陽性 造血細胞移植　叶羽ちゃん退院

拡大新生児マススクリーニング検査（NBS）により、5万人に1人といわれる重症複合免疫不全症（SCID）と診断された広島県内在住の叶羽（とわ）ちゃん（1歳10か月）が、広大病院で造血細胞移植を受けて元気になり8月3日、退院しました。広島県内で初めての事例です。

叶羽ちゃんは出生後まもなく受けた拡大NBSで陽性となり、2023年9月にSCIDと診断されました。同年11月に臍帯血を用いた造血細胞移植を受け、移植後の合併症を乗り越えました。SCIDは重篤な感染症を契機に診断され、造血幹細胞移植を行うも、その成功率は50%程度の難病です。しかし、拡大NBSで発見できれば、造血細胞移植により90%で根治が期待できます。小児科の岡田賢教授は「早期の診断、治療で助かる命があります」、主治医の浅野孝基准教授は「無駄になるかもしれないとしても、検査はぜひ受けていただきたい」と訴えました。

拡大NBSは、通常のNBSにSCIDを含む3疾患を加えたもので、2022年7月から広島大学病院と広島県、広島市が連携して実施しています。生後4～7日の赤ちゃんの足裏から少量の血液を採取して、専門機関で分析します。希望者は、国と県または市の負担により、無料で受けられます。

小児がん知って　広島城を金色に

小児がんへの理解と、子どもたちに必要な医療や研究に「光を照らす」ため、9月11～17日、広島城が金色にライトアップされました。広島大学病院は4年連続で「世界小児がん啓発キャンペーン：Global Gold September Campaign」に参加しました。

広島城北側の公園に、医師や治療を受けた子どもたちと家族が参加し点灯式。オンラインで結んだ大学病院小児病棟の子どもたちが「点灯」と合図しました。広島大学病院小児科の岡田賢教授が「小児がんは、家族も一緒に闘う試練。克服後も就業、就学で困難を抱えます。多くの人に思いをはせてほしい」とあいさつ。毎年協賛していただいている村上農園（広島市佐伯区）の村上清貴社長（広島大学出身）は「少しでも多くの方が小児がんへの理解を深め、支援の輪が広がってほしい」と話しました。がんの子どもを守る会広島支部の藤川京子幹事は「子どもたちの未来を照らしてほしい」と訴えました。

小児病棟では、広島大学出身の後藤明子さん（ヴァイオリン）たちが、弦楽四重奏でジブリやクラシックの名曲を披露してくださいました。

白血病や脳腫瘍などの小児がんは10～14歳の子どもの死因の第1位で、新たな発症は年間約2000～2500人。県内では40～50人が発症しています。治療法の開発や、治療を終えた子どもが安心して健康に過ごせるサポート体制の確立など、課題は山積しています。

看護師プラス

看護師の業務が拡大しています。「専門看護師」「認定看護師」は高度化・専門化が進む医療現場でレベルの高い看護を実践できる看護師に認められた資格です。いずれも日本看護協会が認定しています。

専門看護師は、看護師として5年以上の実践経験を持ち、看護系大学院で修士課程を修了して必要な単位を取得したのちに、専門看護師認定審査に合格することで取得できる資格で、13分野。認定看護師は、看護師として5年以上の実践経験を持ち、日本看護協会が定める600時間以上の認定看護師教育を修め、認定看護師認定審査に合格することで取得できる資格で、21分野です。それぞれの資格を持った看護師がどんな活動をしているのか、紹介していきます。

［専門看護師］
がん看護
織田　浩子

01 どんな仕事？

院内では、診療棟1階正面玄関右手にあるがん相談支援センターで、がんに関する相談を患者さんやご家族、地域の方などから受けています。また、がん患者さんに大事な治療方針等説明がある場合、一緒に説明を受け、今後の治療の選択や生活などについて一緒に考え意思決定の支援をしています。
広島県内全体では、県内のがん相談支援センターの質を高める取り組みを県内がん相談員と共に行っています。その他、がん看護の質向上を目的に、院内だけではなく県内の看護師にむけた教育活動をしています。

02 きっかけは？

看護師経験4-5年目に、今後のキャリアを考えた時、専門性の高い知識と技術を習得する必要があると思い、進学しました。当時は、何を専攻するか決まっていませんでしたが、がん患者さんの看護について悩んだこと、何より恩師ががん看護を専攻されていたことが、がん看護の道を決定する大きなきっかけとなりました。

03 将来へ向けて

がんという病気は高齢化が影響しており、超高齢化社会となる日本では高齢のがん患者さんが増加することが予測されます。当院においても、高齢者の患者さんに安心・安全にがんの検査や治療を受けていただけるよう、高齢者の治療の意思決定や院内外や地域と連携したチーム医療が充実するよう取り組んでまいります。

［特定認定看護師］
クリティカルケア
岡本　美穂

01 どんな仕事？

集中治療室で生命の危機状態にある、重症度の高い患者さんに対し看護を行っています。フィジカルアセスメントを丁寧に行うことを心がけ、患者さんの些細な変化に気づき、看護できるよう努めています。危機状態におかれている患者さんを思う家族への支援を含め、家族との関わりも大切にしています。
また特定行為研修を修了しており、患者さんの状態判断を行い、手順書を用いてPICC挿入や人工呼吸器設定の変更などを行っています。医師とタスク・シェアを行いながらタイムリーな医療、看護を提供しています。

02 きっかけは？

集中治療領域で看護がしたい！という揺らがない思いがあり、専門性を追求し、自身の強みとなる資格を取得したいと思いました。資格取得を考えていた当時の看護師長が、背中を押してくれたことも大きかったと思います。さらにより深く、より専門的に、よりタイムリーな看護を実践したいと考え、特定行為研修を受講しました。

03 将来へ向けて

集中治療領域の看護を探究し、ロールモデルとなり仲間とともに当院の看護の質向上を目指したいと思います。また看護師の特定行為は少しずつ広まっていますが、期待されている看護師数の確保はされていません。当院は研修施設として特定看護師の育成にも力を入れているため、自身の専門性を活かし、看護師育成に貢献したいと考えています。

診療科最前線

「口腔顎顔面再建外科」

（相川友直教授）

▶ 診療科の特徴

口腔顎顔面再建外科では顎顔面領域の疾患の治療を担当しますが、口腔機能の改善のために行う治療が多く含まれます。さまざまな原因による顎変形症や咬合異常の治療、腫瘍等の切除後に生じる顎骨欠損や咬合異常に対する治療、顎顔面外傷・骨折による変形と咬合異常の改善、これらは「咬合外科」あるいは「咬合再建外科」と言える領域で、当科では「咬合外科」「咬合再建外科」を第一の専門としています。

▶ 得意分野

私たちは、顎顔面の形態異常を呈する顎変形症の患者さんに対し、矯正歯科専門医と連携して治療に当たっており、年間160例以上の顎矯正手術を実施しています。当科では3Dシミュレーションソフトを用いたコンピューター支援手術（CAS）を活用して予知性と精度の高い治療を実践しています。また、顎関節疾患や、口唇裂・口蓋裂など先天異常の症例、顎顔面の形態異常に起因する睡眠時無呼吸症候群の症例などの難症例に対しても幅広く対応しています。このため県内外問わず各地から患者さんを受け入れており、西日本における咬合再建外科のハイボリュームセンターとして役割を果たしています。

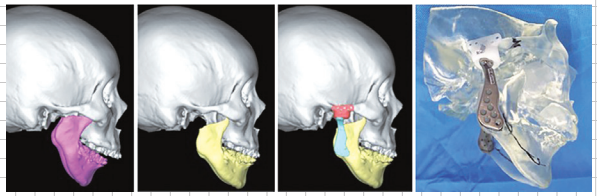
▶ かかりつけ医との連携

幅広い口腔外科疾患に対して、他の医療機関からの紹介を中心に診療を行っています。顎顔面外傷や重症感染症などの緊急を要する症例に対しても、地域医療機関や歯科医院からの相談に応じて迅速に対応しています。

▶ 新しい動き

全身の関節にさまざまな疾患が起こるように、顎関節、下顎骨の関節部分（下顎頭）にもさまざまな病気が起こります。下顎頭の骨が吸収してかみ合わせが悪くなる例や顎変形症患者さんの下顎頭の骨が吸収する例が増えつつあります。特発性あるいは進行性下顎頭吸収と呼ばれるこの疾患は、国の難治性疾患として登録されており、咬合治療や顎関節治療を専門に行っている口腔外科医も、診断や治療に悩み、難渋することが多い疾患です。下顎頭吸収に対する治療法として、外科的矯正治療や肋骨肋軟骨再建に加えて、2020年より保険治療可能になった顎関節人工関節全置換術（TJR）を組み合わせた治療が可能になりました。しかし、これら全ての治療を行える施設は全国的にも限られています。口腔顎顔面再建外科は下顎頭吸収など難症例への外科的治療に取り組んでおり、上記すべての治療を実施する施設基準を満たしています。

＜TJRのCASと実体モデル＞



催しのご案内

（2024年10月～2025年1月）

肝臓病教室

「アルコールと肝障害について（仮）」

講師：消化器内科　医師

「肝疾患と運動（仮）」

講師：理学療法士

2025年1月20日（月）　15:00～16:00

会　場：臨床管理棟3階大会議室

申　込：不要（参加費無料）

問い合わせ：肝疾患相談室

082-257-1541

（10:00～12:00　13:00～16:00）

がん治療を支える患者サロン

がん治療と漢方　10月17日（木）　13:30～14:30

会場：臨床管理棟3階 3F2会議室 /zoom　講師：漢方診療センター　医師　小川恵子

悪性リンパ腫について　12月19日（木）　13:30～14:30

会場：臨床管理棟3階 3F4会議室 /zoom　講師：血液内科　医師　吉田徹巳

最新の肺がん治療について　2025年1月16日（木）　13:30～14:30

会場：臨床管理棟3階　3F2会議室/zoom　講師：呼吸器内科　医師　益田　武

患者おしゃべり会

会場：いずれも広島大学病院診療棟2階　健康情報プラザ

11月26日（火）　2025年1月28日（火）　13:30～14:30

問い合わせ：がん相談支援センター　082-257-1525

ご意見やご感想は下記へお願いします。

広島大学病院　総務グループ　〒734-8551 広島市南区霞一丁目2番3号　082−257−5418

24103